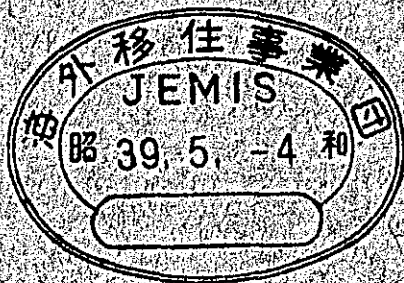
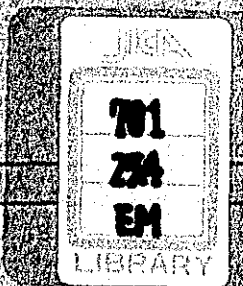


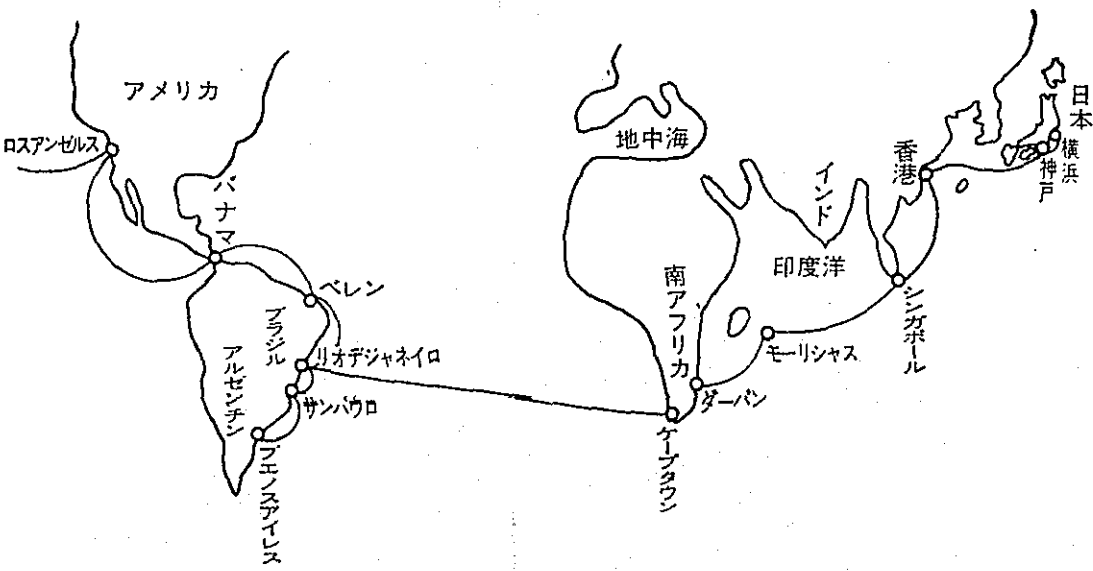
# アルゼンチンは招く

移住シリーズ第1号



海外移住事業団





JICA LIBRARY



1053428[7]

# 国際協力事業団

受入 月日	1971. 2 20	701
		23.4
登録No.	13268	EM

## 発刊のことば

今ほど「世界の中の日本」ということがひしひしと感ぜられるときはありません。

南北問題が国際間の大きな課題として論ぜられているとき、ラテン・アメリカ移住シリーズとしてここになじみ深いアルゼンチンについて初歩的な一般事情を広く知って頂きたいと考え、「アルゼンチンは招く」を発刊しました。

アルゼンチンに対する理解と今後の移住促進のため少しでもお役にたてば幸いです。今後漸次改訂し更に完べきを期したいと思います。

一九六四年三月

海外移住事業団

## 目次

一、はしがき	三
二、ラテン・アメリカのあらまし	五
三、アルゼンチンとはどんな国か	二五
1. 風土と気候	
2. 白人の國	
3. 農牧業と躍進する産業	
4. 社会と教育文化	
四、國のなりたち	二四
1. 侵略から植民地時代まで	
2. 独立から現代まで	
五、日本人移住の歩み	三九
1. 日アの關係	
2. ブエノス近郊の日本人の活躍	
3. ミシオネス州に根を下ろした日本人（ガルアペー移住地）	
4. メンドサ州に伸びる日本人（アンデス移住地）	

六、むすび アルゼンチン移住の将来……………三六

附 ラテン・アメリカにおける国際機構の解説

附 移住関係世界略年表

## 一、はしがき

アルゼンチンには現在約一万五千人の日系人が在留しそれぞれめざましい活躍をしていますが。過去においては近親呼寄せ以外は日本人の受入れ許可が与えられなかったのですが一九五七年一月戦後初めて日本人農業者を五ケ年間に四〇〇家族受入れる許可が与えられ、更に一九六三年五月には日本とアルゼンチンとの間に移住協定が発効し、ここにアルゼンチン移住が大きく脚光をあびるに至りました。かくしてブエノス・アイレス近郊の花弁蔬菜栽培の雇用青年の移住のほかにミシオネス州ガルアツペ移住地への八〇戸の入植が始められ次いでメンドサ州アデス移住地への入植がすすめられここに自営開拓移住がクローズアップされてきました。アルゼンチンにおける日本人の正直さと勤勉さは高く評価されており今後ますます日亜の親善関係がまし、優れた日本人がどしどし移住し、両國の貿易が拡大することが期待されています。

## 一、ラテン・アメリカのあらまし

先づアルゼンチンを含む「ラテン・アメリカ」と呼ばれる地域についてそのあらましをしらべてみましょう。

この地域はメキシコとその南の中米、及び南米大陸ならびにカリブ海諸島を含む広大な地域で面積は約二、一〇〇万平方 $\text{km}^2$ で日本の約五七倍にあたり人口は約二億人と推定され人口密度は平均九人ですが最近における人口の増加率は世界最高といわれています。中米に一二、南米に一〇合計二二の独立国と英蘭仏の植民地から成立ちそれぞれ国情は異なっていますが極めて類似した点も多いのです。この地域は世界人種の混血地域ともいわれ白人インディアン、ニグロの三種及びこれらの混血人と少しの中国人日本人等によって構成されています。白人の国といわれるのはアルゼンチン、ウルグワイ、チリー、コス・タ・リカの四ヶ国でカリブ海に浮かぶハイチはアフリカ系の黒人の国であり、その他の国々は多少の差はありますが混血の国といわれています。

ラテン・アメリカの歴史は一四九二年コロンブスの大陸発見を境としてそれ以前と以後の二つに大きく分けられます。



中南米主要受入国国情一覽表

国名	面積	人口密度 (人口/平方K)	人口増加率	人種	首府		通貨	国語
					名	人口		
アルゼンチン	2,778千平方K (日本の約8倍)	20,614千人 (7人)	1.9%	ほとんど白人 (スペイン系リテ系)	ブエノスアイレス	約380万人	ペソ	スペイン語
ブラジル	8,514千平方K (日本の約22倍余)	64,216千人 (8人)	2.4%	白人 60% 黒人 8% 混血 30% インディアオ 2%	ブラジリア	約20万人	クルゼイロ	ポルトガル語
パラグアイ	406千平方K (日本より少し大きい)	1,817千人 (4人)	2.3%	大部分が白人 との混血	アスンシオン	約29万人	ガラニ	スペイン語
ボリビア	1,096千平方K (日本の約3倍)	3,787千人 (3.6人)	2.2%	白人14% インディアオ55% 混血 31%	ラパス	約33万人	ボリビ	・
ドミニカ	48千平方K (九州四国を合せた大きさ)	2,894千人 (59人)	3.5%	白人 20% 黒人 11.5% 混血 68%	サンクトドミンゴ	約48万人	ペソ	・
日本	369千平方K	96,160千人 (260人)	1.2%		東京	約9,400万人	円	日本語

発見以前は数種類の先住民民族インディオの時代であり原始生活の歴史ですが十世紀から約五〇〇年の間にわたっては今のペルーを中心とするインカ文化の花が咲きほこり、中央アンデス山脈一帯にインカ大帝國を誇りその石造土木技術等は極めてすぐれていたことが知られていゝます。一五三三年スペイン人ピサロの策略によってあえなく滅亡したインカ帝國の悲劇は歴史の齒車を大きく変えたといえましよう。一五世紀末になってスペインポルトガル人の海外發展はめざましく、金銀財宝の取得とカトリック教の布教の目的をもつてこのラテン・アメリカ地域へ進出し、やがてこれらの地域は征服され、その植民地となつたのです。ポルトガル人は今のブラジルにあたる地域を征服したに止まりましたがスペイン人は各地に進出し残りの全ラ米地域をその支配下におさめ爾來三百年に亘り植民地としてほしいままに統治してきたのです。

十八世紀末に至りアメリカ合衆國の獨立(1776)及びフランス革命(1789)の影響に加え、直接的には一八〇七年ナポレオンによるスペイン及びポルトガル本國の制圧を契機として、植民地人の自覚は高まり、ラテン・アメリカにおいては相次いで獨立運動の風潮がおこり、十九世紀において約一〇〇年の間にそれぞれ本國から獨立したのです。

次に主な國々が獨立した年をひろつてみましよう。

メキシコ(一八一一年)      ブラジル(一八二二年)

パラグアイ(一八一一年)      ポリビア(一八二五年)

アルゼンチン（一八一六年）　ドミニカ（一八四四年）

チリ（一八一八年）　キューバ（一八九八年）

ペルー（一八二一年）

独立以來約一五〇年間においてなされたこれら各国の国土の開発經濟の發展は北米にくらべて著しくおわれています。清教徒のアメリカ移住は一六二〇年でスペインの植民開始より約一〇〇年おわれていますがアメリカの独立（1776）とその後の發展ぶりに比べてこの地域は広大な土地と豊かな資源に恵まれながら長い眠りを続けその停滞はいわゆる後進地域として取残されていったのです。

しかし乍ら第二次大戦を境として漸く民族主義運動が盛り上り農牧業の技術的發展をすすめる一方国土の開発に力を入れ従来の農牧畜生産から工業生産への転換の努力がなされつつあります。又南半球を占める後進、低開發国の開發援助が國際間の重要課題となるに及んでアメリカの援助は米州機構（OAS）汎米道路の建設を通じて積極化され「進歩のための同盟」による援助もめざましいものがあります。更に國連機構によるラテン・アメリカ經濟委員會（ECLA）の活動及びラテン・アメリカ自由貿易連合（LAFTA）の結成等により、ラ米地域の開發は今や大きく進展しつつあるのです。（附録参照）

### ○日本との關係

一五、六世紀における倭寇の現象とか、御朱印船の海外発展とか、一七世紀始めにおける高山右近、山田長政等の活躍は元來日本民族が進取の氣象に富んでいることを示すものといえましょう。一六三五年に徳川幕府が決定した鎖国政策は海外に対する門戸の殆んど一切を閉じ、日本は約二三〇年にわたる永い眠りにおち入った訳ですが幕末に至って四囲の情勢は日本の開国を余儀なくさせました。一八六六年（慶応二年）海外渡航の禁止は解除され翌明治元年にはハワイ移民第一陣が渡航しここに日本人の海外進出が始められたのです。然しこのハワイ移民は草分けの悲哀をかこち殆んど不成功に終ったことを忘れてはなりません。ラテンアメリカ地域への日本人移住はそれから約三十年後に開始される訳ですが、これはヨーロッパ移民におけること実に四〇〇年、一八九九年（明治三十二年）ペルー契約移民七九〇名をもって始められたのです。次いで排日運動によってアメリカへの門戸はとざされたのですが、日本人はこれに屈せず雄々しくも一九〇八年（明治四一年）笠戸丸の七八一名を先陣としてブラジル移住の道を切り開いたのです。明治、大正、昭和のめまぐるしい歴史の流れにつれて中南米移住の歩みも幾變遷を遂げました。

明治以降における中南米移住の実績は次表のとおりです。

昭和十六年第二次世界大戦と共に南米移住は全く柱絶しました。南米の在留邦人は戦時中にもかかわらず一部を除いて他國より比較的平和に暮らすことができましたが、戦争による國際

国別年度別統計表 (ラテンアメリカ)

チリ	パナマ	コロン ビ	ボリビア	ウル グアイ	ヴェネ ズエラ	その他	合計
							791
							1
							95
							83
126							1,710
							1,261
							346
							6,325
							3,912
							3,679
							1,145
							1,401
							494
8							3,606
1							8,250
27							4,743
8							1,449
9	2						1,449
15	4		1				1,717
20	1		5				6,050
18	12		3				7,991
21	25		3				4,529
16	15		5				1,945
21	30	3	2				1,936
8	21	2	1				1,349
6	9		2				1,278
4	24						4,502
12	24		1				6,275
25	18		1				10,518
18	16		5				11,561
14	9		5				14,216
22	24	59	21				18,016
40	39	42	26		2		15,682
20	63	2	11		1	5	6,617
8	7		15		2		15,882
7	11		6		2		24,031
9	3	2	12			3	23,667
13	14	105	16			2	6,968
8	3	9	8		7		6,343
11	27	1	12		4	2	5,497
2	12		14				3,198
	(不)		(不)				1,937
	5	2	18				1,939
3	(不)	2	9				1,551
519	415	229	202	18	12	4	244,536

戦前における移住者

年別	国別	ブラジル	ペルー	メキシコ	アルゼンチン	キューバ	パラグアイ
明治	32年		790	1			
"	33年			1			
"	34年			95			
"	35年			83			
"	36年		1,303	281			
"	37年			1,251			
"	38年			346			
"	39年		1,257	5,068			
"	40年		85	3,822	1	4	
"	41年	799	2,880				
"	42年	4	1,128	2	11		
"	43年	911	483	5	2		
"	44年		456	28	2		
"	45年	2,859	714	16	16		
大正	3年	6,947	1,126	47	103		
"	4年	3,526	1,132	35	41		
"	5年	39	1,348	19	33		
"	6年	35	1,429	22	135	76	
"	7年	3,883	1,948	53	127	13	
"	8年	5,956	1,736	128	134	4	
"	9年	2,722	1,507	64	174	3	
"	10年	970	836	53	42	8	
"	11年	970	717	69	53	71	
"	12年	986	202	77	52		
"	13年	797	333	68	66		
"	14年	3,689	651	76	58		
"	15年	4,908	922	160	121	127	
"	16年	8,599	1,250	326	182	117	
昭和	2年	9,625	1,271	319	262	45	
"	3年	12,002	1,410	353	387	37	
"	4年	15,597	1,585	249	430	29	
"	5年	13,741	831	434	489	37	1
"	6年	5,562	299	283	362	6	
"	7年	15,092	369	149	239	1	
"	8年	23,299	481	85	135	5	
"	9年	22,960	473	80	112	9	
"	10年	5,745	814	53	201	5	
"	11年	5,367	593	(不)	349	9	
"	12年	4,675	166	65	307	77	150
"	13年	2,563	177	38	288	1	103
"	14年	1,314	223	67	187		146
"	15年	1,564	111	67	183	1	38
"	16年	1,277	24	28	124	1	83
合	計	188,986	33,060	14,476	5,408	686	562

的信用の失墜と在留邦人のうけた痛手は私共が忘れることのできない心すべきことであります。職前ラテン・アメリカへ渡った日本人は渡航後において現地で相当移動をしていますから、はっきりした数字は出せませんが二世、三世を含めて凡そ次の分布といわれます。

国名	在留日系人数
ブラジル	約四〇〇、〇〇〇名
アルゼンチン	約一二、〇〇〇名
ペルー	約四〇、〇〇〇名
ボリビア	約一、〇〇〇名
パラグアイ	約八〇〇名

戦後平和条約の発効に伴ない、十一年振りに昭和二十七年海外移住が許可されブラジル国アマゾンへのジュート栽培移民五四名をもって再開されました。

爾来十有余年日本人の持つ進取の気象と優れた逞しいエネルギーは海外へ流れでて行つたのですが、とかく人減らし的な過剰人口対策としての移住に対する考へ方は後退し新らしく移住者の幸福を第一義として国際協力の基礎に立った移住理念が最近になつてはつきりうちたてられるに至りました。戦後における海外移住の送出実績は次のとおりです。

(昭和39年2月末現在)

年度別・国別移住者送実精表

(政府渡航貸付者分)

年度	国名	年度別・国別移住者送実精表										計				
		ブラジル	パラグアイ	アルゼンチン	ベネズエラ	ミャンマー	ペルー	エクアドル	コロンビア	メキシコ	チリ		ウルグアイ	マリアカ		
27		54														54
28		1,480	18													1,498
29		3,504	208	2			7									3,741
30		2,659	647	117			87	3			1					3,514
31		4,170	1,074	23	565	3	3	6	2	2	4	3			118	6,168
32		5,172	1,507	57	239	377	23	3	3	1	1					7,439
33		6,312	522	91	331	327			1	1	5			5	12	7,606
34		7,041	147	114	133	1			1	4	2				177	7,610
55		6,822	964	43	1	454			11		1		10	70		8,386
36		5,146	706	88	2	309			8				2	2		6,263
37		2,406	220	219	3	84			10		1				8	2,751
(37.4)		37,711														
38		820	45	63						2			3			933
(38.7.15)																
合計		45,616	6,058	817	1,324	1,649	32	16	17	7	20		387	55,963		



ここにおいて更に深く考へさせられることは、一九三三年（昭和八年）日本人移住が最高潮に達したその翌年、ブラジルにおいては外国移民入国二分制限法が議會を通過し、これによつて日本移民が最も大きく制限をうけたことであります。又ペルーにおいては一九三六年（昭和十一年）日本人の移民及び營業制限令を公布し一九四〇年（昭和十五年）には排日暴動が起り多くの日本人商店の焼打ちや掠奪が行なわれたことであります。ラテン・アメリカにおける人種差別は極めて少ないといわれていますが相手国社会に真にとけこみその国の開発及び経済發展に寄与することこそが相互の友好と理解を生み、移住者の繁榮と安定を約束するものであることを銘記しなければなりません。

政府においてもポリビア国、（昭和三十一年八月発効）パラグアイ国（昭和三十四年十月発効）アルゼンチン国（昭和三十八年五月発効）ブラジル国（昭和三十八年十月発効）と移住協定を結びここに海外移住がしつかりした基盤の下に強くおしすすめられています。これらラテン・アメリカ地域との關係においては日系企業の進出、通商の拡大もすすめられつつあり工業技術、文化の交流も盛んになっています。

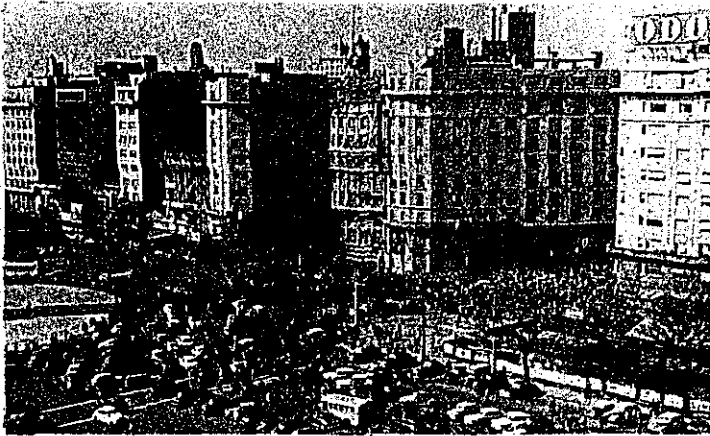
現在日本人を喜んで受入れてくれるラテン・アメリカの新天地において日本民族の技術と能力を十分に發揮し伸ばすことこそ大きな希望といえるでしょう。ここにラテン・アメリカの南端に位置し南米でも最も文化の高いヨーロッパ風の国アルゼンチンについて述べてみましょう。

## 三、アルゼンチンはどんな国か

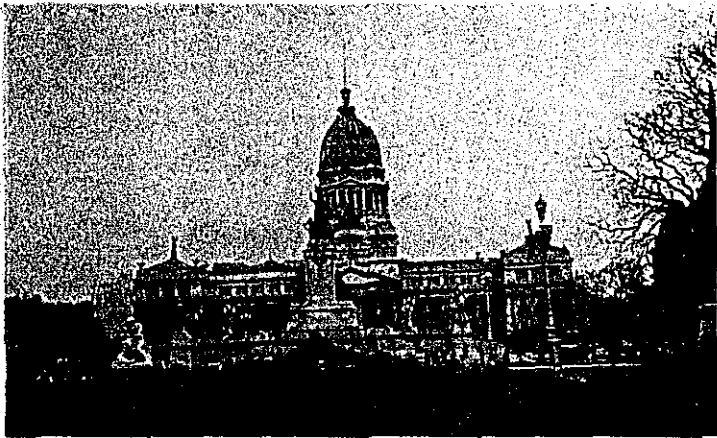
### 1. 風土と気候

日本と全く地球の反対側に位し南緯二三度から五五度にわたって南米大陸の南端に所在する南米第二の大国です。国の北端はボリビア、パラグアイの兩國に接し北東はブラジル及びウルグアイ西は南米の屋根といわれるアンデス山脈を境としてチリーに接しており東及び東南は大西洋に面し、面積は約二八〇万平方kmで日本の約八倍の大きさです。アンデスの山脈地帯を除いては多少の起伏はありますが概ね平坦で南部へ行くにしたがって低い平地になっています。源をブラジルに発しているラプラタの大河（石狩川の十二倍の長さ）は北から南へゆるく流れ兩岸のパンパとよばれる大平原を灌がいしつゝ、大西洋に注いでいます。その河口には南米のバリーといわれる首都ブエノス・アイレス（人口約三八〇万）市があります。

南半球に位置するアルゼンチンは南へ行く程寒く北部及び北東部は亜熱帯性で暑気がひどく湿気が多いのですが四季の区別は少なく雨期（十月―三月）と乾期（四月―九月）に分れるにすぎません。中央部は温帯で南部は寒帯に属し南進するにつれて四季の区別が明らかとなり日本とは反対で春は九月―十一月夏は十二月―二月です。主な州別の平均気温は次のとおりで住み



ブエノス・アイレス市の大通り



国会議事堂

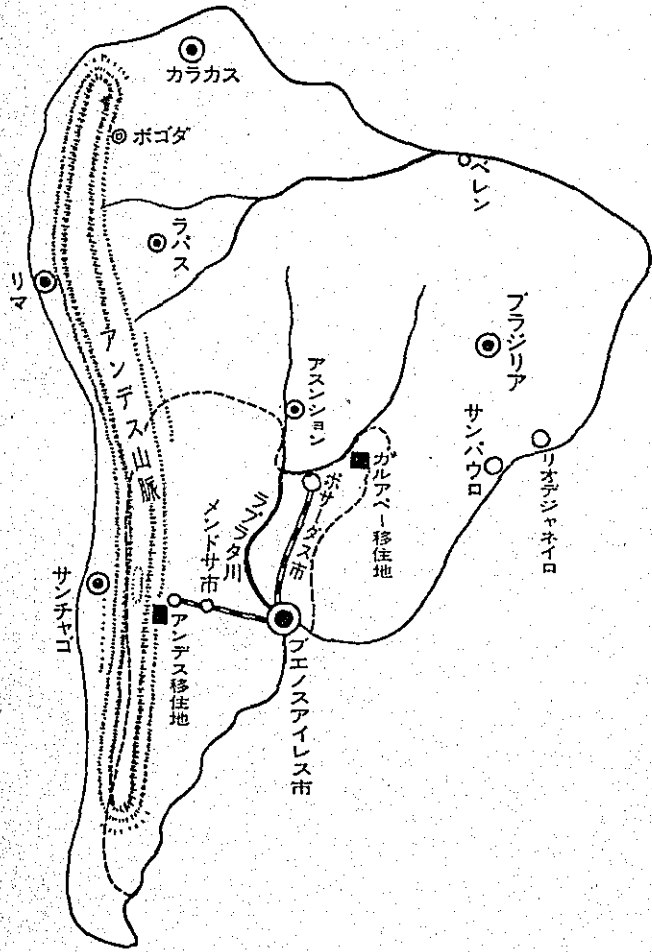
よい気候です。

州 別	夏 期	冬 期
ブエノスアイレス州	二五度	一二度
ミシオーネス州	二八度	二〇度
メンドサ州	二二度	一〇度
リオ・ネグロ州	二七度	八度

## 2. 白人の國

ラテン・アメリカは世界最大の混血地域といわれています。南米においてはチリー・ウルグアイとならんでアルゼンチンは「白人の國」といわれヨーロッパでも南欧系のスペイン系及びイタリー系の白人が全体の95%を占めています。インディアンの血をひく土着人はわずかです。十六世紀のはじめスペイン人の侵略により先住遊牧の民であるインディアンは奥地へ逃げこんだため殆んど混血が行なわれなかつたのですが、そこへ一九世紀後半に至りイタリー人、スペイン人が大量移住してきた為です。

一八五七年から一九三九年に至る八三年間に約七〇〇万のヨーロッパ人が移住してきていますがその中約四四%はイタリー人であったのです。最近に至りヨーロッパからの移民はヨーロッパ



ツバの好況の影響もあり著しく減っており。日本の約八倍の大きい国土に人口はわずかに約二、一〇〇万人で人口密度は一平方キロ当り七人です。近年における人口増加率は急ピッチで約1.9%平均を示しております。

中南米の人々がアルゼンチンの気質についてとつつきが悪いとか生意気だとかいうことを時々耳にすることがあります。アルゼンチン人はよい意味での個人主義が他より発達しており、よりヨーロッパ的であり、より都会人的であることに加えてアルゼンチン国の繁栄と文化の高いことに対する若干のねたみが原因しているのではないかと思はれます。この国では人種階級による区別もほとんどないし、在ア日本人も日本人の誇りをもって十分とけこんで愉快に生活しており、アルゼンチン社会でもその活動は高く評価されています。

### 3. 農牧業と躍進する産業

最近著しい工業化をすすめています。農牧畜業が依然として国家経済の主軸で世界有数の大牧畜国です。主としてパンパの大平原地帯から南方へかけて牛羊の大群が牧養されており二九〇万トンを超える食肉生産は経済の大きな支えとなり羊毛はオーストラリアに次ぐ世界的輸出国で年間二〇万トンをこえています。耕地面積は全土の一一%にすぎず四一%が牧草地帯三二%が森林地帯です。農産物の第一は小麦でカナダに次ぐ良質品として知られその輸出量は世界第二位です。とうもろこし亜麻仁、棉花等の産出も有名です。西部アンデス山脈の東斜面にあ

るメンドサ州は南米の「カリフォルニア」といわれブドウの栽培とブドウ酒の名産地として知られています。南部リオ・ネグロ地方はリンゴと梨の栽培に適しています。

海岸線は長く漁業資源は豊富で近年需要の漸増に伴ない日本からも太平洋漁業と日本水産の両会社が進出してトロール船が活躍し好評をうけています。タンニン原料及び枕木として使用されるケブラチヨ材は世界の80%を生産し重要輸出品ですが良質木材が乏しく主としてブラジルから輸入しています。鋳業は開発がおくれておりますが埋蔵量二三億バレルといわれている石油は近年開発がアメリカ資本の導入により急速に伸び一九六一年度には自給自足ができるようになり従来外貨二億ドル以上使っていた輸入をやめることになりました。(もっとも最近、この米國資本との石油開発契約はイリア政権により破棄せられました)鉄及び石炭の開発はおくれっていますが目下その開発計画がすすめられています。鉄、石炭の不足にかかわらず工業化は著しく進み工業製品はアルゼンチン総生産の約50%を占め国内需要の25%を充足しています。紡績製糖セメントを始め重工業も次第に発達しつつあります。

貿易についてはラテン・アメリカ諸国の中では最も対米依存度の低いのが特徴で主な輸出先はイギリスが第一位でオランダ、イタリー、アメリカ、ブラジル西独チリー、日本となっております。輸入はアメリカが第一位、西独、イギリス、イタリ、ブラジル、日本等が主な輸入先で、日本との貿易も盛んになりつつあります。日本からの輸出品の主なものは鉄鋼機械類でアルゼ

ンチンからの輸入の主なものは、とうもろこし、ふすま、馬皮、羊毛等です。日・ア函国の貿易の推移は次のとおりです。

年次	アルゼンチンへの輸出	アルゼンチンからの輸入
一九五八年	二六、一〇〇千ドル	二六、七八六千ドル
一九五九年	一九、八〇九	三二、一九三
一九六〇年	二七、九四一	五〇、五七二
一九六一年	四一、三二二	六五、〇五七

#### 4. 宗教と教育文化

国民の大部分はヨーロッパ系移民の子孫であり人種的な明確な差別はないのですが大都市の商業金融活動の実権は主としてユダヤ系移民がおさえているのが目立ちます。宗教については信仰の自由が認められていますが国教はカトリック教で国民の約85%を占めています。全国が九つの大司教区と二六の司教区に分けられ蒸地の立派なものには驚く程です。国語はスペイン語です。南米で最も教育が普及しており、初等教育（六才—十四才）の七年間は義務教育で一切の費用を政府が負担しています。中等教育（五年）大学教育（通常五年）も整っており、国立大学は九校あり多くの日系子弟も進学し成績が良、といわれています。





ミシオネス州サン・イグナシオのイエズイット教の遺跡



アルゼンチンの踊り

芸術も盛んでホセエルナンデス(1834—1886)による「マルティン・フィエロ」の名作は十九世紀におけるアルゼンチンの田園生活とくに牧童(ガウチョ)の生活を取扱ったものでガウチョ文学の最高作品として有名です。南米アルゼンチンの異彩はガウチョ(Gauchos)で、十六世紀南米大陸へ渡ったスペイン人の子孫がラプラタ河流域の太平洋で半遊牧的な生活をしているうちに形成された人種です。広いパンパを馬で乗りまわす生活の喜びと悲しみを唄った叙情的生活感情は今なお現代アルゼンチン国民にもずとつながつているようでガウチョを知らなくてはアルゼンチンは理解できないとさえいわれるくらいです。音楽舞踊(タンゴ、ミロンガ等)は私達にとっても既になじみ深いものです。

都会においてアメリカと著しく異なるのは、街に立ちならぶ建物、公園や街角に立っている銅像、住民の服装などだけでなく生活態度に至るまでヨーロッパの母国のしきたりや伝統を強く引継いでいるように見えることです。

アメリカへの移住者達が母国の政治や宗教に強い不満を持って新らしい天地に渡り新国家を建設したのに比べアルゼンチンへの移住者は自分の母国の領域をひるげようとして渡ってきたからであります。

都市の生活様式はヨーロッパ的ですが、地方都市にゆくと初代開拓者の出身地によりそれぞれスペイン、イタリー、イギリス風の様式が守られており北部地方では今でも、インディアン

の風俗が若干残っています。

アルゼンチンの国営鉄道は延約四七、〇〇〇軒に達し最近日本からも一五〇台の電車を輸入することになりました。バス、船舶による国内交通も次第に発達しつつあり、ブエノス・アイレスを基点とする航空路の発達はめざましく、盛んに利用されています。

## 四、国のなりたち

### 1. 侵略から植民地時代まで

紀元前から数種のアメリカインディアンの先住民が永い間原始的生活をして住んでいました。一四九二年コロンブスの新大陸発見に刺戟されスペイン、ポルトガル人の海外進出はめざましく十六世紀の初めにはラプラタ河がスペイン人によって発見されました。その河口周辺を初めてスペイン国領土と宣言したのはフェルナンド王に派遣されたスペイン探險家ソリスが一五一五年ラプラタ河のデルタ地帯に辿りつき「真水の海」と名づけその一帯をスペイン領土と宣言したことによるものです。彼等一行は更に奥地へ進みましたが殆んどグアラニー族の手にかかって倒れました。

その後探險隊は相次いで入り、一五二七年カボットがブエノス・アイレスに最初の植民地を

建設しましたその後土人との争いもあり荒廃に帰したのですが一五八〇年ガライによって再建されました。その後チリー、ペルー方面から進出したスペイン人は奥地の各所に植民地を創設しそれらを總称してラプラタ植民地と称したのです。それから以降約二〇〇年にわたってスペイン本國の独占的通商政策により抑圧され政治的にはペルー副王の支配下におかれていました。

一七七六年スペイン國王カルロス三世はリオ・デ・ラ・プラタ植民地を独立させブエノスアイレスに首府をおき副王制を布きました。元來ラプラタ地域へ進入してきたスペイン人は金銀を取る目的でやってきたのですが、鉱山は見当らなくてヨーロッパからつれてきた牛馬が大草原でよく繁殖するのを見て牧畜によって富を得ようとし農牧業は次第に盛んになりました。一八〇七年にイギリス人がスペイン人に対抗して海路ブエノス・アイレスを侵略しようとしたが、住民達はこぞって立上りこれを撃退しました。時の文人ピセンテ・ロー・ペスが作った詩の一節「ああ雄々しきアルヘンティノよ」が広く歌われこのときからラプラタ(銀の河)の地名がアルヘンティノ(ラテン語で銀の意)と呼ばれるようになり現在に至っています。

かくして三百年間にわたリス・ペイン人は先住インディアンを次第に征服し植民地として統治を続けてきたのですが、世界の歴史は新らしく転回を始めここに英雄ホセ・サンマルチン・モン・ボリバル等による南米解放運動が始まったのです。

サンマルチンは一七七八年にミシオネ州のジャベジウ町に生れスペイン本國で軍事教育をう



ホセ・サンマルチンの銅像

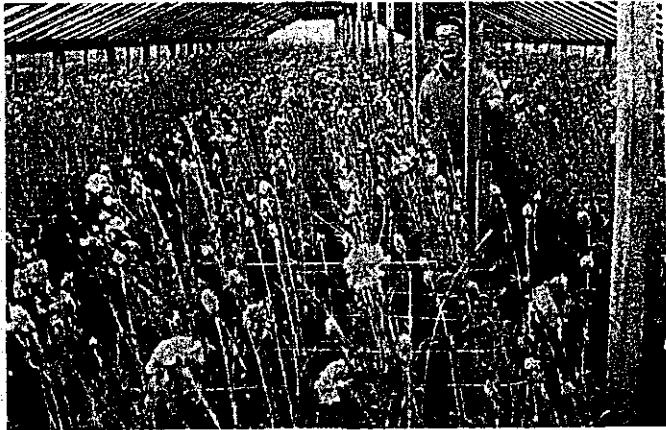
け一八二一年（ナポレオンがモスコー遠征に失敗した年）

三十四才の時無名の一人として懐しい故郷に帰ってきたのです。それから二十五年間峻険アンデス山脈を東奔西走し南米解放に尽くした偉大な功績は今なおアルゼンチンはもとよりペルー、チリーにおいてもひとしく敬慕されています。スペイン三百年の専政搾取から解放したサンマルチンが晩年において一切の地位を求めず淡々として暖かい家庭愛の中に包まれ清廉な生涯を終わったことは今日迄も語り伝えられております。

## 2. 独立から現代まで

スペイン本国がナポレオンの侵略をうけたのを契機としてラ米地域には自由と独立

の思潮が澎湃として起こり植民地人の自覚は高まり一八一〇年五月遂にスペイン本国から独立し今日のアルゼンチン国の基礎が定められました。その後革命と内紛が続きましたが一八二五年連邦制憲法が制定されアルゼンチン共和国の名称が定まり一応安定しました。その後二三年間にわたるローサスの独裁恐怖政治があり、その崩壊後相次いで混乱、革命が続きましたが、一八六八年南米のフランクリンといわれるサルミエント大統領の治世以来漸く政情が安定するようになりました。当時イタリイ移民が急増し鉄道の建設や国内の開発も大いに進展しました。第一次大戦においては中立を維持しましたが、第二次大戦においては一九四四年に入って日独と國交を断絶したのです。戦後は一九四六年以来十年間にわたってペロン大統領が政權を握り「政治的主權と經濟的獨立と社会的正義の確立」をモットーとして強力に主要産業の國有化をはかる一方、第二次大戦で蓄積された外貨を使って工業化政策と社會保障の拡充を押しすすめたのです。一九五五年に至り經濟計画の行きづまりと地主層の反撃がつのり遂に軍部のクーデターによって追放されました。その後政情は必らずしも安定せずペロンを支持するペロニスタ党及び同系の労働勢力が政情不安の一原因となっておりましたが、一九六三年の総選挙の結果選出されたイリア政權によって、漸次安定の途についております。



ブエノス・アイレス市近郊の花弁栽培



ブエノス・アイレス市近郊の日本人住宅

## 五、日本人移住のあゆみ

### 1. 日アの關係

日アの關係は極めて友好親善的で一九四四年一時國交を断絶しましたが一九五二年復交し現在大使を交換しています。最近におけるアルゼンチンの移住政策は単に人を受け入れることなく具体的計画性を持ちアルゼンチンの經濟發展に寄与し得る移住者に限り大いに歓迎するという基本態度です。明治に始まるわが國の移住者の足跡を眺めるとき或は途中でたおれ落伍した人も多いのですが言語風俗習慣凡てが異なる社会において唯々粒々辛苦逞しい開拓者精神と不屈の意志をもって今日の地歩を築きあげられた功績は今なお輝き私共に尊い訓へを垂れているようです。大牧場主として成功された伊藤清藏博士を始めこの先人達の偉業を颯び新らしい技術と能力を具えたすぐれた日本人が移住することこそ今後の進むべき方向といえるでしょう。

### 2. ブエノス近郊の日本人の活躍

アルゼンチンへの日本人移住は古く明治四十一年笠沓丸乗船者の一部がブラジルから渡ったことに始まっています。



現在ブエノス近郊には約一万人の日系人が分布しその約九〇％は農業とクリーニング業に従事し残りは商業自由業に従事し医師や学者として成功した人もあり尊敬をうけています。ブエノス市内における花市場では日系人が最も有力な立場にあつて、その生産物は芸術を愛するアルゼンチン人にことのほか愛好されています。郊外に立並ぶ花作りの温室（フレイム）は大抵日系人のものです。又ブエノスの北方約三〇kmにあるウルキッサ移住地には戦後、白人と一緒に日本人が十八戸入植して都市近郊農業の典型的な姿で野菜や、花作りの外養鶏を盛んにやつており安定した営農をすすめています。

又花卉蔬菜栽培青年として呼寄せられて戦後渡つた人々も三、四年後には独立して、立派に成功している人もあります。なお在ア同胞有志によつてアルゼンチン拓植協同組合も結成されており日本人の移住受入れに協力しており又移住者が着アれた時の宿泊施設もかねて、立派な日本人会館がブエノス中心街に建設されています。

### 3. ミシオネス州に根を下ろした日本人（ガルアペー移住地）

ミシオネス州が日本人発展の楽天地として大きくクローズアップされたのはガルアペー移住地の購入によるものです。

ミシオネス州はアルゼンチンの最東北端に位置し赤色の肥沃土に包まれ約八〇％は緑の森におおわれた丘陵地帯でその北端にあるイグアスーの大瀑布の景観は世界第一といわれています。



ガルアペー移住地におけるパラナ松の植林



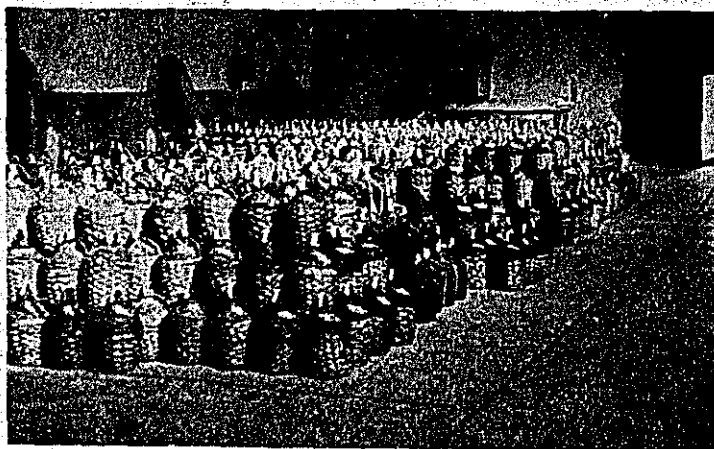
ミシオネス州の日本茶畑

州の首府であるポサーダス市に海拔六〇〇mの高さにあり人口約七万人の都会で鉄道船舶の便もよく交通の要点です。ミシオネス州は気候(平均二二度)が良く降雨に恵まれ特にアルゼンチン人が日常愛好するマテ茶の特産地です。この地方における日本人入植者の先駆者は婦山徳治氏で一九二一年十二月ポサーダス市から五〇km離れたサンタ・アナに二五町歩の原始林を購入して入植した草分けです。言語に絶する茨の道をたどり十六年にしてやっと苦難の時代を突破して成功されましたが全くその努力には頭の下がる思いがいたします。

爾來相次いで日本人の入植がなされ夫々立派な大農園主となつて成功しています。ガルアペーにある坂田耕橋園の壮大さには驚くばかりです。一九五七年ガルアペー地区に三〇〇ヘクタールの原始林が購入され、八〇家族(一戸当り約三十ヘクタール)の集団移住が始まったのですが、この地区は国道十二番線に接し州の中央部にあたり地味は赤土で極めて肥沃、適作物は永年作物として紅茶、柑橘、パラナ松、油桐、ユーカリ樹、ブドウなどで間作物としては煙草、マンジョカ、芋、豆類、とうもろこしなどです。既に同地は八〇戸の入植によつて満植となり、初期に入植した人々は安定した営農をすすめ後続した入植者へ適切な助言指導を行なっています。当事業団でもガルアペー農業試験場を設け農作物の試験研究の外営農指導にあたりと共に学校診療所の施設も整えています。



アンデス移住地の馬鈴薯栽培



ヘネラル・アルペアル近郊のブドウ酒貯蔵庫

#### 4. メンドサ州に伸びる日本人（アンデス移住地）

メンドサ州は首都ブエノス市から西方約千kmの位置にあります。州都メンドサ市（人口十万人）はアンデス山脈の麓にあり、一八二四年英雄サンマルチンが知事として赴任し大いに治績をあげたところです。地形上大きく南北の二つに分けられ年間平均気温はほぼ東京と同じ十六度位です。夏季は平均二二度、冬季は平均一〇度位で時には降雪もみられ零下に下ることもあり大陸性気候です。四季の区分は次のとおりです。

春 九、十月 夏 十一月、十二、一、二、三月

秋 四、五月 冬 六、七、八月

雨量は少なく年間二八〇mm以下で日本内地の1/10程度で雨水は軟水として非常に貴重です。従って高峯アンデスの氷雪を源とする河川及び地下水の利用による灌がい農業が広く行なわれ、メンドサ州における灌がい施設が行届いている面積は約五〇万ヘクタールをこえています。豊かな日光と地味により果樹蔬菜栽培には最適地といわれアメリカのカリフォルニアとよく似ています。土壌は概してアルカリ性の強い植壤土を含む乾燥砂質土でアンデスの山岳地帯を除いて一般に平坦な草原です。

州人口は約八〇万人といわれスペイン（混血含む）系人が最も多く商業にはトルコ人も多数従事しています。日系人は南部メンドサ地方に多くヘネラル・ルベアル市（人口約三万五千

人)を中心に百数十名が住んでいます。

彼らは、主に農場経営、農産加工、醸造業、種苗業等を営んでおり明治四十一年笠戸丸にて渡泊した人々が一部この地方に転住し既に三十余年の星霜を経て安定した生活をしています。

北部メンドサには約三十名の日系人が商業及び農業に従事している程度です。

メンドサ州の特産はブドウで全アルゼンチンの産出高の65%を占めておりその美味なことは賞讃の的でまたブドウ酒の醸造も盛んです。

又オリブ、モモ、リンゴの果樹栽培も盛んでこの外トマト、ピーマン、たまねぎ、にんにくじやがいも、メロン、西瓜等も適作物で特にトマト、ピーマンは全州至るところに缶詰、ジュースの加工場があります。

当事業団が直営するアンデス移住地(一九五九年購入)はメンドサ州サシ・ラファエル郡ハイメ・プラッツ地区に所在し所謂南部メンドサに位置しています。総面積約二三〇〇ヘクタールで一二四ロットに区画され一ロットは標準一〇ヘクタールです。移住地の中央にある二ロットは将来の市街地、公園、工場敷地として予定されています。標高は海拔約六〇〇mで灌木を含む草原地帯です。この地域の灌漑はアトエル河を水源としニューイールダムからアトエルスード導水路によって移住地に導入されています。従来の移住地がほとんど原始林開拓農業であったのに比べてこの地区は畑地灌漑農業であることが大きな特色でメンドサ州政府において

も大規模な灌漑耕地拡張計画をたてており将来への発展が期待されています。移住地から二kmの地点に小学校がある外約一四km離れたヘネラル・アルベアル市（人口約三万五千人）には上級学校病院等の施設も整っており、利用することができます。

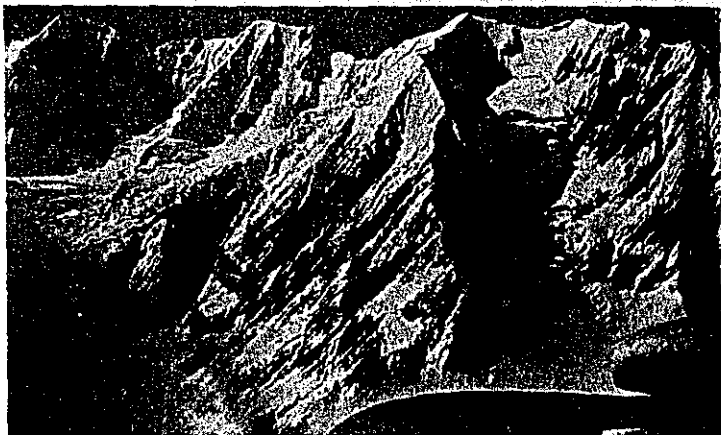
又移住地の近傍にはトラックで一時間の距離内にブドウ酒醸造工場が約五〇、缶詰及び乾果工場が約一〇もあり農産物の販売は容易です。更に貨車でブエノス・アイレス市まで出荷することもできます。

日本人の優れた畑地灌漑農業技術をいかしてこの土地に果樹蔬菜栽培が飛躍的に発展することが期待されています。雪におおわれたアンデスの高峯を眺めながら三〇年前入植した先住者にまげず今日も元気で営農にいそむ日本人の姿こそメンドサ地方における明日の宝といえるでしょう。

## 六、むすび アルゼンチン移住の将来

### 1. ラテン・アメリカの発展

今ラテン・アメリカは色々問題をかかえながら、又国による格差も著しい中で、相当な勢いで発展しています。殊に第二次世界大戦後における米ソを軸とする東西問題のほかに、最近新ら



アンデスの山岳

しく南北問題がクロージアップされ、国際機構による後進国開発援助が活発化し、米州機構、進歩のための同盟その他の援助がすすめられ欧米先進国の技術と資本がどんどん進出していきます。殊にブラジル、アルゼンチンの工業化は急ピッチですすめられようとしており広大な肥沃土と豊かな資源に恵まれたこの地域が未来の可能性の大陸として今後大きく伸びることが期待されています。

## 2. 躍進を期待されるアルゼンチン

近年米英を軸とする外国資本の導入がすすめられる一方において、ヨーロッパ移民の減少に伴ない日本人の優れた技術と能力によって農業部門は勿論工業技術部門の開発が大きく期待されております。



13世紀—20世紀に至る

世紀 区分	1300年代まで	1400年代	1500年代
ヨーロッパ及びアメリカ	1096~99年 十字軍 1139年 ポルトガル王国建設 1215年 大憲章制定(英) 1338~1453年 百年戦争 羅針盤火薬の発明	ルネッサンス時代 1453年 東ローマ帝国亡ぶ 1453年 スペイン王国成立 1492年 コロンブス大陸発見 1498年 ヴァスコガマガイドのカルカッタに達す	1517年 ルター宗教革命(独) 1519年 マゼラン世界周航マニラに達す 1522年 達す 1588年 スペイン無敵艦隊イギリスに敗る
日本	1369年 明が倭寇の禁止を請う	1491年 戦国時代始まる	1530年 明が日本人の往来禁止 1542年 ポルトガル人種子島へ鉄砲伝はる 1543年 スペイン人平戸へ来る 1549年 フランシスコザビエルが鹿児島へ来て初めて布教 1582年 遣欧少年使節出発 1592年 朱印船制度成立(豊臣秀吉)
ラテン・アメリカ	インカ帝国		1521年 コルテスがメキシコ征服 1532年 スペイン人ピサロがペルー征服 1533年 インカ帝国亡ぶ 1544年 ペルーに副王おく(スペイン) 1500年 ポルトガル人ブラジルを発見 1515年 スペイン人ラグラダ河を発見

移住関係世界略年表

1600年代	1700年代	1800年代	1900年代
1600年 東インド会社設立(英) 1607年 ジェームスタウン建設(英) 1620年 清教徒アメリカ移住 1621年 西インド会社設立(オランダ) ニューアムステルダム植民地を建設 1688年 名誉革命(英)	産業革命始まる 1775~83年 アメリカ独立戦争 1776年 アメリカ合衆国独立 1789年 フランス革命	1812年 ナポレオンはロシア遠征に失敗 1816年 ワイマール憲法制定(独) 1823年 モンロー主義宣言(米) 1840年 阿片戦争(英支) 1859年 ダーウインの種の起源 1861~65年 南北戦争(米) 1884年 インドシナ征服(仏) 1898年 米西戦争 キューバ独立	1906年 サンフランシスコ日本人学童事件(米) 1913年 カリフォルニア州にて排日土地法成立(米) 1924年 排日移民法成立(米) 1948年 米州機構OAS結成 ECLAの設立 1951年 I C E M設立 (1961年日本もオプザーパーとして参加) 1952年 移民帰化法制定(米)
1613年 支倉常長ローマへ 1614年 高山右近ニラへ 1620~30年 山田長政シャムへわたり日本人町首長となる 1635年 鎖国漸行	1778年 ロシヤ船千島へ来る	1817年 英船浦賀へ来る 1853年 ペルー浦賀へ来る 1858年 米英領土露との修好通商条約 1860年 遣米使節団アメリカへ(咸臨丸) 1866年 鎖国令解除 1867年 ハワイ移民第一陣 1872年 マリア・ルス号事件 1884年 日布移民条約 1899年 ペルー移民始	1904年 日露戦争 1908年 ブラジル移民始まる 日米紳士協定結ぶ 1911~5年 第2次世界大戦 1951年 平和条約締結 1952年 海外移住再開
1671年 イギリス人海賊パナマを襲撃 1697年 フランスはサントドミンゴ島の東部を領有	1763年 ブラジル植民地の首都リオへ移る 1767年 ジェスイット会派新大陸から追放 1776年 ラブラタ副王おく(スペイン)	1804年 ハイチ独立 1810年 以降スペイン植民地の独立運動おこる 1811年 パラグアイ独立 1816年 アルゼンチン独立 1821年 ペルー独立 1822年 ブラジル独立 1825年 ボリビア独立 1865~70年 パラグアイ戦争(パラグアイブラジルアルゼン	1914年 パナマ運河開通 1932~5年 チャコ戦争(パラグアイボリビア) 1934年 二分制限法成立(ブラジル) 1940年 ペルーで排日暴動おこる 1960年 ブラジルの首都ブラジリアへ移る 1961年 L A F T A の設立

### 3. アルゼンチンは近い

ジェット機や通信機の発達によって世界はますます狭くなってきました。南米からの手紙は十日で着きます。羽田からジェット機に乗れば約三六時間でブエノス空港に着きます。移住者はトランジスタラジオで日本のニュースや音楽を聞いています。

現代こそ世界は相互に理解し助け合うべきときです。ここにおいて立派な日本人がどんどん海を渡って永住し現地社会に融和して相手国の人々から敬愛をうけ自からも繁栄することこそやがては相手国の開発に寄与することであり、又国相互の友好と理解を深める最大のきつとなるでしょう。こういう結びつきによって、丁度地球の裏側にあるアルゼンチンと日本が協力し合って共に発展してゆくことができるのではないのでしょうか。皆さん「アルゼンチン」は招いています。

## 附

### ○進歩のための同盟 (The Alliance For Progress)

「進歩のための同盟」というのは一九六一年三月十三日故ケネディ米大統領がラテンアメリカ二〇ヶ国の代表者をホワイトハウスに招待した席上はじめて使った言葉である。同年八月十七日ウルグワイのブンタ・デル・エステで開催された米州機構会議で正式に採択されたブンタ・デル・エステ憲章にその目的と内容が記されている。この同盟の根本的考え方は南北アメリカが共同責任を分担してその平和と安全、政治的自由、経済的、社会的進歩の達成に邁進しようとするものである。憲章にはその目標として次の事項が掲げられている。

経済的社会的発展を促進するため、……すべての国民に住居らしい住居を与えるために；  
土地を農民のものとし、その経済安定の基礎をつくるために総合的土地改革を促進するた  
め……

文盲を一掃するため……

税法を改正し脱税を処罰し国民所得を再配分するため……

インフレを防止して国民の購買力を保護し経済発展の基礎となるような金融財政政策を確  
立するため……

民間企業の助成を図り過度の物価変動により生ずる深刻な問題に対して恒久的解決策をたてるため……

米州諸国は以上の目的を達成するため少なくとも十年間に一千億ドルを支出すると声明しており、アメリカとしては他の先進国と協力して十年間に総計二百億ドルの援助を出すこととしている。現状においては援助をうける国が自から計画をたてその計画に対し援助する建前となっているので計画のたたない国々には援助がなされていない。長期計画は今後すめられるところだが短期計画は着々進みラテン・アメリカ全体を通じて発足後二ケ年間に低所得層に対する住宅十四万戸九百の医療施設八千二百の学校教室と七百の水道が各地で新設された。

今後更に文盲退治、農地改革、税制改革等の長期計画がすめられる予定で特に開発に要する人的資源の重要性が叫ばれ指導者技能者の養成に力を入れていることが注目される。

#### ○米州機構 (Organization of American States 略OAS)

一九四八年四月アメリカと中南米二〇ヶ国との間に結成され、国連憲章枠内の地域機構をして発足した。そもそも一八二三年発表したアメリカの「モンロー宣言」次いで汎米主義、米州連合の過程を経て今日に至ったものでこの目的は西半球における紛争の平和的解決と米州諸国の相互理解を促進するところにある。従来の軍事的性格から経済的政治的結びつきとして進展しておりECLAとの間には一九五九年調整委員会が設けられ両者の重要な活動については互

に連絡し報告することとなっている。

#### ○汎米道路 (Pan American Highway)

アラスカからカナダ、北米、中米、南米を貫通する国際道路で全長二万八千マイルで中米と南米の一部を除いて八〇%完成している。一九三六年着手され各国の費用で工事を負担することとなっているがメキシコを除いて多くはアメリカ又は世界銀行から援助をうけている。この道路の完通による影響は大きいと期待されている。

#### ○ラテン・アメリカ経済委員会 (Economic Commission for Latin America 略ECLA)

国連の経済社会理事会の下に属し一九四八年に設立され中南米二〇ヶ国とアメリカ、イギリス、フランス、オランダが加入している。その目的は「資源の開発利用」に向けられ基礎的調査の外最近では共同市場問題と経済開発が焦点となっており、多くの人材と統計を駆使して綿密なデータの上に計画をたてて推進しておりラテン・アメリカの経済発展上大きな貢献をしている

#### ○ラテン・アメリカ自由貿易連合 (Latin America Free Trade Area 略LAFTA)

欧州経済共同体 (EEC) の設立とそのめざましい発展に刺激されかつ ECLA の共同市場構想の提案もありラテンアメリカにおいても LAFTA の設立にふみきり一九六〇年アルゼンチン、ブラジル、チリー、メキシコ、パラグアイ、ペルー及びウルグアイの七ヶ国に翌年更にコロンビア、エクアドルの二ヶ国が加わり現在九ヶ国が加入している。ボリビアは錫をはじめと

する鉱産物の輸出市場が主として域外諸国であり又ヴェネズエラも主要産品たる石油の輸出が域外であることと高賃金国であること等を理由に加入してはいない。

この目的は自由貿易地域の形態下においてこの地域内の貿易関税を撤廃して国内市場を拡大することによって経済開発を促進しようとするもので国別リスト及び共通リストが作成されている。然しながら今後域内貿易自由化のためには更に貿易決済と信用供与の機構の設立又は域内における陸上輸送改善等多くの問題が残されている。

わが国のラテン・アメリカ貿易に対する影響は更にL A F T Aの進展をみなければ判断しにくい。ラテン・アメリカ地域への軽工業輸出品は市場を失なうおそれもあり輸出市場確保の趣旨からもこの地域内の適当な国へ企業進出し域内の産品として自由化に均てんしつつ域内諸国へ輸出することが必要となってくるだろう。

○欧州移住政府間委員会 (Intergovernmental Committee For European Migration)

(英、C. E. M.)

I C E Mは一九五一年十二月アメリカのインシヤティブでヨーロッパ人の海外移住を国際協力の線にそって促進するため設立された国際機構でヨーロッパ諸国及びヨーロッパ人移住者を受入れているアメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、ラテン・アメリカ諸国等二九ヶ国が加盟しており本部はスイスのジュネーブにおかれている。

日本も一九六二年十月からオブザーバーとして参加している。I C E Mは現在唯一の移住に

関する政府レベルの国際機関であり世界における移住の大勢を知り相互の理解を深めることに極めて有益である。

参 考 図 書 案 内

書 名	著 者	発 行 所	発 行 年
中 南 米	山 本 進	岩 波 書 店	昭和36年
中南米の研究	木内信胤監修	世界経済調査会	昭和35年
ラテン・アメリカ史	中屋健一	中央公論社	昭和39年
ラテン・アメリカ史	井沢 実監修	同 上	同 上
ラテン・アメリカ事典	外務省 監修	ラテン・アメリカ協会	同 上

海外移住事業団の主な刊行物

海外移住誌本 { 上巻 総括  
下巻 現地事情

明日の国パラグアイ           パラグアイ事情一般の入門

アルゼンチンは招く           アルゼンチン事情一般の入門

海外移住の手引               海外移住の案内

海外移住の初歩知識           海外移住に関する初歩的知識の普及

南米精図

機関紙「海外移住」           毎月20日発行

移住のしおり                 (パラグアイ, アルゼンチン, 第二トメアス, etc)

東京都港区赤坂田町 7-1 (電話代表 (503) 8911番)

海 外 移 住 事 業 団



